令和６年度

令和６年１０月２４日

学校自己評価表（**中間評価**）

新潟産業大学附属高等学校

学校運営計画	
教育方針	「生徒一人ひとりを大切に」することを基本に据え、「自ら学び、自ら考え、自ら行動する自立(自律)した人間を育てる」ことを教育目標とし、「自己を磨く」「人とのコミュニケーションを図る」「社会と繋がる」能力の獲得を達成し、「部活で燃えろ！進路で輝け！」を合言葉に、「全国に名高い部活動・進学校」を目指す。

昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
成果：国公立大学合格者が５人に増加し、大学等進学率が３年連続で５０％を超え５６.５％となった。部活動では、県総体で卓球部が男女共に学校対抗優勝を果たすなど多くの部で成果を挙げ、上位大会でも活躍した。また、通信制課程が順調にスタートした。 **課題：**入学者確保、ICT 活用、家庭学習定着、産大進学者数増が引き続き課題である。また、新導入するプログラム制や新設部活動の順調な運営が新たな課題となる。	(1)生徒指導 基本的生活習慣の確立	①生徒・保護者とのコミュニケーションを密にする。 （聞く⇒聴く⇒訊く(hear → listen → ask)の徹底） ②行動変容するまで寄り添って一致した指導を実践する。
	(2)募集 広報活動	①広報委員会主導による全員広報で、定員確保を図る。 ②プログラム制や新設部活動等で魅力化の拡充を図る。
	(3)進路希望 実現	①キャリア教育の視点に立った進路学習を推進する。 ②生徒の進路第一希望達成１００％を目指す。
	(4)学習指導 の充実	①ICT活用など質の高い授業を実施し、学力向上を図る。 ②主体的に学習に取り組む態度を育成する。
	(5)特別活動 の充実	①文武両道を奨励し生徒の帰属意識を高める。 ②生徒会活動、学校行事、部活動を一層充実させる。
	(6)学校経営 校内研修等	①通信制課程設置計画を着実に履行する。 ②研修の充実等により、意識改革と指導力の強化を図る。

重点目標	具体的目標	具体的方策		評価		
(1) 生徒指導 基本的生活習慣の確立	①生徒・保護者とのコミュニケーションを密にする。 聞く⇒聴く⇒訊く(hear → listen → ask)の徹底	生徒指導部	些細な問題でも迅速に情報共有する。人権に配慮しながら、初動を怠らないよう的確に対処する。	B	B	B
			保護者と連携し、指導したらその日のうちに連絡し、事案によっては家庭訪問をして安心を促す。	A		
		１学年	生徒の日常の小さな変化を見逃すことなく、教員間で情報共有を密にし、その日のうちに保護者に連絡をとり密に連携を図る。	B		
		２学年	常に生徒の動向に気を配り、少しの変化も見逃すことなく、迅速に生徒・保護者と情報共有を図る。	A		
		３学年	成人を迎えるにあたり HR 活動や面談を通して、家庭との連携を図りながら、心の教育や規範意識を高めるための指導をする。	B		
	②行動変容するまで寄り添って一致した指導を実践する。	生徒指導部	指導は「丁寧に根気強く」「意味を理解させ」毅然と振る舞う。	B	B	
			HR や集会等を利用し規範意識の向上を図る。 （身だしなみ・貴重品管理・SNS の適切利用・授業規律・時間厳守・法令など）	B		
			違反者に対し「生徒指導報告書」を利用し段階的な指導を行う。	A		
		１学年	高校生活の目標を明確にし学習指導・生活指導共に丁寧に行う。	A		
			教育相談を充実させ学年で統一した指導を行い、基本的生活習慣を徹底させる。	B		
		２学年	個別面談で情報収集を図り、必要があれば学年集会等を通じて全体に周知し、統一した指導を徹底する。	A		
		３学年	最高学年としての自覚を持たせ、安定した学校生活を送れるよう、身だしなみ指導や学習環境の整備を徹底して行い、目標にまっすぐ向かっていけるよう指導する。	B		
(2) 募集 広報活動	①広報委員会主導による全員広報で、定員確保を図る。	広報委員会	高校説明会や教員対象入試説明会などで、在校生を活用して本校への安心感や理解の促進を図る。	A	B	B
			オープンスクールでは、プログラム制をはじめ、体験型の構成により本校の魅力を伝え、発刊物の充実を図る。	B		
			SNS をはじめ、ニュースや地域新聞をはじめとする報道媒体を活用して、本校の魅力を発信する。	B		
	②プログラム制や新設部活動等で魅力化の拡充を図る。	プログラム制運営委員会	各プログラム・講座の企画、調整を行い円滑に実行できるようにする。課題点を振り返り、修正を行う。	B	B	
			１年生については、幅広い講座の中から自身の興味、関心や進路に応じた選択をさせ、充実した高校生活を送れるようにする。	B		
		ダンス部	柏崎刈羽地区はもちろん、近隣地域の各種イベントに参加し、ダンス部の活動を PR することで、部員の増加を図る。	B		
		ドローン部	部員のドローン各種資格取得を目指すとともに、部としてドローンを活用した撮影など、実践的な活動を展開する。	B		
			UAV（無人航空機）ファンクラブとのコラボレーションを通じて、学校と地域社会とのコミュニケーションを促進する。	B		
(3) 進路希望 実現	①キャリア教育の視点に立った進路学習を推進する。	進路指導部	生徒自らの興味・関心を軸に課題を発見し、解決を目指す中で身に着けた資質・能力を。次の学びにつなげる。	B	B	B
			キャリア教育の視点に立って進路活動に取り組ませ、生徒の成長を促すとともに学力向上に導く。	B		
		１学年	さまざまな行事に積極的に参加させ、充実した高校生活を送る中で、多角的な考えが持てるように指導する。	A		
		２学年	総合的な探究の時間で、他地域との違いを比較・考察することによって、多様な生き方、考え方に触れさせる。	B		

		３学年	自分の将来のビジョンを持たせ、それを意識しながら具体的な進路活動に取り組ませる。	B		
			「自分らしい生き方を実現するための力」を育成するために、学校行事に主体的に取り組ませる。	B		
	②生徒の進路第一希望達成100％を目指す。	進路指導部	進路指導部ニュース等の進路情報や自身の活動の的確な振り返りにより、自身のより良い生き方の模索を図る。	B	B	
			模擬試験や取組みの振返りを行い、進路実現できる力を養い、希望進路を安易に下げさせない指導を行う。	B		
		１学年	幅広い進路選択を可能にするために、自ら情報収集させ、面談等を通して進路についての考え方を広げさせる指導を行う。	B		
		２学年	進路情報を自ら収集させることにより進路意識を向上させ、具体的な進路志望を早期に設定させる。	A		
		３学年	諦めることなく、更に上を目指す意識を持たせ、自ら希望した目標を全員が達成できるよう支援する。	B		
			進路ガイダンス、講話を通じて「職業的自立」「社会的自立」を高め、自分らしい生き方を実現できるように考えさせる。	B		
			高い志を堅持させ、第一志望を貫けるように支援し、大学等進学率５０％以上、就職内定率１００％を目指す。	B		
（4）学習指導の充実	①ICT活用など質の高い授業を実施し、学力向上を図る。	教務部	1，2 年生ではタブレット端末、3 年生は電子黒板を活用して、自分の考えや意見を、ＩＣＴなどを活用しながら相手に伝え、他者の考えの良さを発見する場を設定する。	C	B	B
		国語	各科目に具体的な留意点を設定し、生徒の様相を踏まえながら継続的な指導を実施する。	B		
		数学	ICT で視覚的に解決への見通しをもたせる授業を実施する。	B		
		英語	ICT 教材を積極的に用いることにより、単語・熟語の習得をはじめ、発音や英会話の練習にも興味を持ち、積極的に英語学習に取り組めるよう指導を行う。	B		
	②主体的に学習に取り組む態度を育成する。	教務部	自ら進路を見据えた資格検定を見つけ、より上位級の受検を促し、知識を身に付ける場や学習意欲高める広報活動を行う。	C	B	
		国語	学習課題を課し、学習習慣の定着を図ることで、学習に向かうために必要な基礎学力を身につけさせる。	B		
			現在の学習内容がどのように進路に活きるのかを適宜授業内で伝え、現在の学習内容の意義を意識させる。	B		
		数学	学習記録表で授業の振り返りを行い、家庭学習課題を課し、学習習慣の定着を図る。	B		
		英語	個々に対する丁寧な指導を行い基本英文法の定着を図ると共に実用英検受験を推奨し、学習に向かう姿勢を意識づける。	B		
		１学年	基礎学力の定着と学習意欲向上のために定期考査や朝活などを活用し計画的に学習に取り組ませ、学習習慣を身につけさせる。	B		
		２学年	朝活の時間を利用しながら継続的な学習習慣を身につけさせ、家庭学習時間の増加を図る。	B		
		３学年	目標を明確にすることで、自ら課題を発見し、積極的に取り組ませるように指導する。	B		
（5）特別活動の充実	①文武両道を奨励し生徒の帰属意識を高める	生徒指導部	必要な情報を提供しながら、関心・意欲を高め、主体的・積極的に取り組み、社会に貢献できる実行力を身につけさせる。	B	B	B
			心身を鍛え、心を磨き、学習する環境を整え、困難にも負けない知力や体力を身につけさせる。	B		
	②生徒会活動、学校行事、部活動を一層充実させる。	生徒指導部	生徒会・専門委員・学年委員・ホームルームで共に学び、高め合い、注意もできる環境にし、各種行事において成就感・達成感のある企画や運営を支える。	B	B	
			生徒会・専門委員・学年委員が主となり、組織的に活動し、校内外の環境美化や施設衛生管理を行い、生活環境を整える。	B		
			部活動では県内トップクラスの実績を維持し、活動内容や実績を外内部にインフォメーションし関心を高める。	A		
（6）学校経営校内研修等	①通信制課程設置計画を着実に履行する。	通信制教務室	年間定員 120 名の充足のための、生徒募集活動を全員参画にて目標達成。※学校訪問・資料発送・個別相談・オンライン説明会の役割分担・募集活動の研修を 4 半期に 1 回実施。	B	B	B
			校運営マニュアル（教務・進路・生徒募集）を作成し、年間通した安定運営の柱を作成し、進級更新 95 %、進路決定率 90 %の達成を目指す。	B		
	②研修の充実等により意識改革と指導力の強化を図る。	教務部	全職員がＩＣＴを活用した授業を実践できるように、研修会を実施する。	C	B	
			他校への見学を含めた、自己研鑽できる機会を提案する。	B		
		企画委員会	指導者としての意識改革と時代に則した教育実践のため、実施した研修を自己申告シート等に記録し自らを検証する。	B		
成　果					総合評価	
					B	

※評価　　A：十分達成　　B：概ね達成　　C：達成不十分　　D：未達成